

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減額として処理）を採用している。

また会計処理は洗替処理でなく切放処理としている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	43,874,550	0	0	43,874,550
投資有価証券	896,590,000	0	372,040,000	524,550,000
小 計	940,464,550	-	372,040,000	568,424,550
特定資産				
貸与貸付金	20,796,000	-	2,695,000	18,101,000
奨学事業積立資金	122,050,627	55,349,451	-	177,400,078
小 計	142,846,627	55,349,451	2,695,000	195,501,078
合 計	1,083,311,177	0	374,735,000	763,925,628

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	43,874,550	(43,874,550)		
投資有価証券	524,550,000	(524,550,000)		
小 計	568,424,550	(568,424,550)		
特定資産				
貸与貸付金	18,101,000	(18,101,000)		
奨学事業積立資金	177,400,078	(177,400,078)		
小 計	195,501,078	(195,501,078)		
合 計	763,925,628	(763,925,628)		

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
用途の制約の解除による振替額	320,491,890
合 計	320,491,890

5. 正味財産増減計算書に計上されている受取寄付金振替額の内訳

(単位：円)

区 分	当年度	前年度
当年度受取寄付金額振替額	1,170,000	3,495,000
過年度受取寄付金額振替額(特定資産取崩額)	-	4,766,605
合 計	1,170,000	8,261,605

前年度の受取寄付金を振り替えて不足する分は、過年度に寄付金として受け取り、

特定資産として運用していた一部を取崩し、財源としている。

当年度からは新型コロナウイルス感染症被害に対する学生への支援に伴う基本財産の取り崩しを行い、奨学資金を増額したことにより、科目の重要性が増したため、独立掲記した。